事務・事業の実施から評価・改善までの流れ　（2013年度版）

限られた経営資源を効果的に活用し、市民サービスを提供するためには、円滑にＰＤＣＡサイクル※を回すことが重要です。市においても、どの程度のコストや人員をかけてどの程度の成果を上げたのかを振り返るとともに、より一層の成果を上げるためにはどうしたら良いのか、または、より効率的な行政運営を行うには何が課題なのかを振り返ることが必要です。

以下の図は、評価・改善までの流れ（概要）を示しています。

「目標」とは、各部長・各課の単位で策定した「仕事目標」を指しています。仕事目標の策定を通して、組織の使命、貢献すべき対象を明確にし、現状とのギャップから課題を導きだすことで事業改善に結び付けています。また、仕事目標は策定で終わることなく、中間確認と年度末確認を行うことで、当初に立てた計画との乖離とその要因を分析することで、振り返りを行っています。
「決算」は、前年度に実施した事業の成果と費用等について、市民の代表である議会から認定を受けて成立します。「新公会計制度」とは、2012年度から町田市が導入した制度で、現行の官庁会計（単式簿記・現金主義会計）に加えて、複式簿記、発生主義会計を導入した制度です。新公会計制度を導入し、各組織、各特定事業単位での財務諸表を作成しています。
「事業の見直し」については、主に外部の視点から行政の見直しを行っている事例を記載しています。内部の視点では気づかない事業課題等について外部の視点を入れることで気づき、業務改善につなげています。

※ＰＤＣＡサイクルとは、「計画」「実行」「評価」「改善」という一連の活動を繰り返すこと。

進捗状況の確認等

- 4～5月
  - 仕事目標策定
  - 新5ヵ年計画進捗確認
    - 新5ヵ年計画の進捗状況を計り、計画がどこまで進んでいるのか、または滞っているのかを確認し、予算編成や仕事目標等において取り組みを進めています。
- 6～8月
- 9月
  - 仕事目標中間確認
    - 年度当初に立てた目標と中間確認時点での達成状況を踏まえ、後半期の取組を検討します。また、当初に策定した目標が状況にそぐわなくなった場合は、中間確認時点で変更します。
- 10月
- 11・12月
- 1・2
  - 事務と執行体制の確認シート
    - 当該年度の各部局における業務量を明らかにするとともに、次年度以降の執行体制の検討に資するため作成します。
- 3月
  - 仕事目標年度末確認
    - 1年間の取組内容を振り返り、うまくできたこと、できなかったことを整理し、自己評価を実施します。

決算・新公会計制度

- 事業別財務諸表の作成
- 主要な施策の成果の作成
- 決算参考資料の作成
  - 組織のミッション、事業目的、事業の成果等の情報を交えた分析を行うことで、事業別に財務分析と事業課題の整理を行います。
  - 決算を議会の認定に付すにあたり、前年度の主要な施策の成果のほか、決算の参考資料を作成します。
- 決算特別委員会
  - 一会計年度の歳入・歳出について、監査委員の意見を付した決算を9月議会に提出し、認定を受けます。

事業見直し

- 町田市版事業仕分けの実施
  - 外部の有識者と市民で構成する仕分けチームと市の職員が議論し、事業改善に向けた方策を導きます。
- 包括外部監査の実施
  - 市の組織に属さない外部の専門家と市長の間で外部監査契約に基づいて，市の財務の監査を行います。
- 事業仕分けの改善プログラムの策定
  - 事業仕分けの指摘事業を踏まえて、事業改善に向けたプログラムを策定します。
- 包括外部監査報告書の提出
  - 外部監査の結果、意見を付した報告書が外部監査人から提出されます。
- 包括外部監査の進捗確認
- 事業仕分けの進捗確認
  - 包括外部監査及び事業仕分けの指摘事項のうち、どこまで改善が進んでいるのか、なにが滞っているかを把握し、改善に努めます。